

A decorative background consisting of a cluster of hexagons in various shades of yellow and orange. Some hexagons are solid, while others are outlined or have a light gradient. The text is centered over this pattern.

2. よりよい授業のために

伝えたい気持ちを育む

日本では年間に 1000 本を超える映画が公開されています。見たい映画があるとき、誰と見に行きますか。親しい人、気が合う人等、複数で見に行くという人もいれば、一人で見に行くという人もいます。では、両者それぞれのよさは何でしょう。映画館でシートに座ればおしゃべりはできませんので、見ているときは共通的に独りです。つまりそれぞれの特徴を考えると、映画を見終わった後がポイントとなります。

複数で映画鑑賞をした後は必ずその映画を話題にして話します。場面、人物、話の流れ、台詞などの、自分が疑問に思ったところ、心が動いたところ、共感や納得したところなどについて話したくなります。つまり、「気づいたこと（見つけたこと・気になったこと）」があればあるほど話さずにはいられなくなります。「気づき」にも 2 種類あります。それは「すっきり分かったこと」と「もやもやしていること」です。このどちらにしても話したくなります。前者であれば話の中で共感や共有を、後者であれば他の人との話を通して自分の考えを整理したり、付け加えたり、まとめたりして「なるほど」と納得にたどり着きます。

一人で映画鑑賞をした後はその映画の余韻が大切です。自分の中で映画と対話しながら、物語の世界観を確認していく作業をします。自分の感性を大事にしたい人にとっては他の人との対話より、自分との対話を楽しむ傾向があります。ここでも自分の「気づき」を自分との対話によって深めていきます。

このように「気づき」は人の心をアクティブにさせます。気持ちをアクティブにして考えることでよりよく理解する、自分や他の人と話をする中で分からないことをはっきりさせ、より自分の考えを深めることができます。⁹

学習では「言いたい、話したい、伝えたい」— この気づきを言葉にして考えることによって、物事や課題の意味を理解し、その解決につなげていくことが大切です。また、コミュニケーションの出発点になることも含め、留意すべきポイントとなります。

平成 30 年度の全国学力・学習状況調査の結果では、「気づきを言語化し、意味を理解する」という視点を持つことで、改善していくことができる問いがあります。

9 【「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進】子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、我が国の優れた教育実践に見られる普遍的な視点である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）を推進することが求められる。今回の改訂では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める際の指導上の配慮事項を総則に記載するとともに、各教科等の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」において、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることを示した。その際、以下の6 点に留意して取り組むことが重要である。

ア 児童生徒に求められる資質・能力を育成することを目指した授業改善の取組は、既に小・中学校を中心に多くの実践が積み重ねられており、特に義務教育段階はこれまで地道に取り組まれ蓄積されてきた実践を否定し、全く異なる指導方法を導入しなければならないと捉える必要はないこと。（次頁に続く）

小学校 国語A (主として知識)		対象 設問数 (問)	寒川町		神奈川県 (公立)	全国 (公立)
分類	区分		平均正答率	全国との差		
全体		12	65 *	-5.7	70	70.7
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	1	87.9	-2.9	91.0	90.8
	書くこと	1	71.9	-1.9	74.3	73.8
	読むこと	2	69.7	-4.3	74.5	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	8	59.7	-7.3	66.1	67.0

A 問題	気付きを言語化し、意味を理解する 「読むこと」設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(正 答 率)	全 国 の 正 差 答	無 解 答 率
4	『くらやみの物語』を読んで心に残ったことを一文を取り上げて説明する際に、その一文が心に残った理由として適切なものを選択する	登場人物の心情について、情景描写を基に捉える	67.6	-6.4	0.2
5	【春休みの出来事の一部】の中で点線部と棒線部とのつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す	文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く	28.3	-7.2	4.1

* 平成 29 年度より平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、寒川町は小数点以下を四捨五入した結果を示しています。(全国は小数第 1 位まで、都道府県及び市町村は小数点以下を四捨五入した結果の公表となっています。)

※教科に関する調査については、年度ごとに調査問題、また、調査をする児童・生徒が異なるため、その結果の経年変化を単純に比較することができないこと、当該年度の結果を真摯に受け止め今後の対応につなげるという 2 点の理由から、平均正答率については平成 30 年度分のみ公表としています。なお、本文中に出ている質問紙調査の結果については、過去 3 カ年分をまとめていますが、これについては、これまでの取り組みについての傾向性や学習状況の変化を見るためであり、教科に関する調査のまとめ方とは意味が異なります。

イ 授業の方法や技術の改善のみを意図するものではなく、児童生徒に目指す資質・能力を育むために「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で、授業改善を進めるものであること。

ウ 各教科等において通常行われている学習活動（言語活動、観察・実験、問題解決的な学習など）の質を向上させることを主眼とするものであること。

エ 1 回 1 回の授業で全ての学びが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見通し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかを考え、実現を図っていくものであること。

オ 深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要になること。各教科等の「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐものであることから、児童生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることにこそ、教師の専門性が発揮されることが求められること。

カ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題がある場合には、その確実な習得を図ることを重視すること。

(新学習指導要領解説総則編第 1 章 1(2)③より)

中学校 国語A (主として知識)		対象 設問数 (問)	寒川町		神奈川県 (公立)	全国 (公立)
分類	区分		平均正答率	全国との差		
全体		32	73 *	-3.1	76	76.1
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	3	73.7	-1.5	76.1	75.2
	書くこと	4	73.1	-0.8	74.5	73.9
	読むこと	4	75.6	-1.1	77.3	76.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	21	71.7	-4.8	75.6	76.5

A 問題	気付きを言語化し、意味を理解する 「読むこと」設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(正 %) 答 率	率全 と国 の正 差答	無 解 答 率
5-1	本文の第六段落の説明として適切なものを選択する	段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てる	74.0	-2.3	0.0
5-2	新聞紙の製造工程の一部を言い表したものとして適切なものを選択する	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える	58.1	-1.4	0.2

国語については、主として「読むこと」について、「読みとる力」を育成する上で「気づき」を大事にした学習活動を行うことが必要です。「読むこと」は学習活動全てにおいてなくてはならない力です。これについては「書くこと」とともに次項で説明します。

小学校 算数A (主として知識)		対象 設問数 (問)	寒川町		神奈川県 (公立)	全国 (公立)
分類	区分		平均正答率	全国との差		
全体		14	59 *	-4.5	64	63.5
学習指導要領 の領域等	数と計算	5	54.3	-8.0	63.1	62.3
	量と測定	4	72.5	-0.2	71.7	72.7
	図形	3	51.8	-5.1	57.1	56.9
	数量関係	5	53.8	-6.3	61.0	60.1

A 問題	気付きを言語化し、意味を理解する 「数と計算」設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(正 %) 答 率	率全 と国 の正 差答	無 解 答 率
1 (3)	針金 1m の重さを求める式を選ぶ	1に当たる大きさを求める問題では、除数が小数である場合でも除法を用いることを理解している	56.4	-8.9	2.2
2	答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選ぶ	小数の除法の意味について理解している	25.7	-14.2	1.0
3	3桁の整数どうしの大きさを比べ、十の位に入る適切な数字を書く	十進位取り記数法で表された数の大小について理解している	70.2	-6.2	0.5

*平成29年度より平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、寒川町は小数点以下を四捨五入した結果を示しています。(全国は小数第1位まで、都道府県及び市町村は小数点以下を四捨五入した結果の公表となっています。)

中学校 数学A (主として知識)		対象 設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
分類	区分		平均正答率	全国との差		
全体		36	63 *	-3.1	66	66.1
学習指導要領 の領域	数と式	12	65.5	-5.6	70.0	71.1
	図形	12	66.9	-2.2	68.7	69.1
	関数	8	53.5	-2.0	55.9	55.5
	資料の活用	4	62.0	-1.5	62.8	63.5

A 問題	気付きを言語化し、意味を理解する 「数と式」設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(%) 正答率	率全 と国 の正 差答	無 解 答 率
1(2)	絶対値が6である数を書く	絶対値の意味を理解している	39.9	-29.1	12.5
1(3)	$2 \times (-5^2)$ を計算する	指数を含む正の数と負の数の計算ができる	55.0	-13.9	1.4
10	点(-2, 3)の位置を座標平面上に示す	座標平面上に点の位置を示すことができる	58.4	-11.5	3.1

算数・数学については「数と計算」「数と式」の領域について、これまでも課題がありましたが、記号や語句、解き方の指導にとどまらずに、問題を見たときの視点を大事にし、言語化させることで、技能の習得、数学的な見方や考え方につなげていくことができます。

小学校 理科		対象 設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
分類	区分		平均正答率	全国との差		
全体		16	59 *	-1.3	60	60.3
枠組み	主として「知識」に関する問題	3	79.0	1.0	74.0	78.0
	主として「活用」に関する問題	13	54.0	-2.2	56.0	56.2

知識	気付きを言語化し、意味を理解する 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(%) 正答率	率全 と国 の正 差答	無 解 答 率
1(3)	腕を曲げることのできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く	骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解している	81.8	2.4	3.6
2(1)	流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ	堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している	84.7	1.1	0.0
4(1)	ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気付き、適切に操作する方法を選ぶ	ろ過の適切な操作方法を身に付けている	70.4	-0.7	0.0

*平成29年度より平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、寒川町は小数点以下を四捨五入した結果を示しています。(全国は小数第1位まで、都道府県及び市町村は小数点以下を四捨五入した結果の公表となっています。)

中学校 理科		対象 設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
分類	区分		平均正答率	全国との差		
全体		27	64*	-2.1	66	66.1
枠組み	主として「知識」に関する問題	11	66.0	-1.9	66.0	67.9
	主として「活用」に関する問題	16	63.0	-1.9	65.0	64.9

知識	気づきを言語化し、意味を理解する 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(正答率)	率全 と国 の正 差答	無 解 答 率
2(2) 低い濃度	理科通信のアサリに興味をもち、アサリが出す砂の質量は何に関係しているのかを科学的に探究する学習場面において、水溶液の濃さや無脊椎動物に関する知識、問題解決の技能を活用できるかどうかをみる	濃度が異なる食塩水のうち、濃度の低いものを指摘できる	72.0	-4.5	0.5
2(2) 3.0%の濃度	理科通信のアサリに興味をもち、アサリが出す砂の質量は何に関係しているのかを科学的に探究する学習場面において、水溶液の濃さや無脊椎動物に関する知識、問題解決の技能を活用できるかどうかをみる	濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる	41.9	-5.0	0.5

理科については、主として「知識」に関する問題を取り上げますが、「予想する」「実験方法を考える」「実験をする」「結果について考える」という学習活動をする上で、発見や疑問などの「気づき」が出発点となります。実験ありきの授業ではなく、児童・生徒の言葉を軸に授業を構成することで、技能についてもその意味を追求できるようになります。

新学習指導要領¹⁰の小学校の年間の授業時数¹¹は、1年生は850時間、4年生からは1015時間あります。また、中学校は1年生から3年生までそれぞれ1015時間あります。全ての授業が児童・生徒にとっては新たな出会いです。授業での学習活動の中で、その時間の目的や目標が児童・生徒にとっての「気づき」になることが、学習内容を理解することと同じ意味になります。

1年間で公開される1000本の映画を一人で作ることはありませんが、1000回の授業をそれぞれの学年の先生で作っているのは紛れもない事実です。

それ以上に児童・生徒は、一人が1000回の授業を担当の先生やクラスメイトと共に、毎日作っていることを考えると、そこに価値があることも確かです。

また、日々それを支える家庭があることにも視野を広げると、それぞれの頑張りの結晶がこの結果であるといえます。

1000回の授業全てでじっくりと話し合う時間をとることは、1年間で履修しなくてはならない内容がある以上難しいことですが、各校での校内研究を通して授業改善を行ってきたことで、「主体的・対話的で深い学び」の実現⁹を意識した授業が行われています。

10 【新学習指導要領について】小学校は平成32年度から実施、中学校は平成33年度から実施される。

11 【授業時数について】小学校では1単位時間は45分、中学校では1単位時間は50分とする。

授業改善の中で学習内容との出会わせ方次第で「言いたい、話したい、伝えたい」という思いが生まれます。学力向上については温かな学習環境の中で児童・生徒の言葉で作られる授業を行うことが、確かな学力をつけていくために欠かせません。

「読む」機会・「書く」機会を確保する

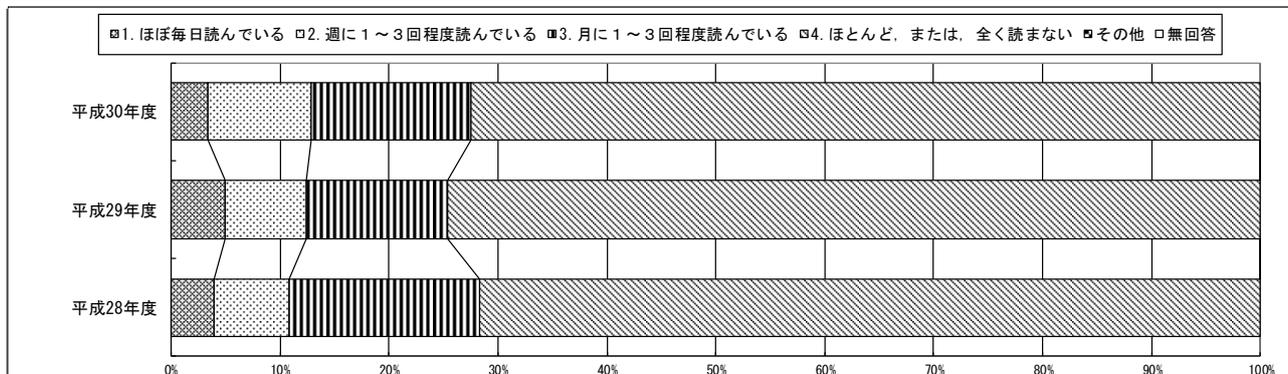
携帯電話 94.7%。スマートフォン 71.8%。これは総務省が公表している平成 29 年度版情報通信白書の情報通信端末の世帯保有率です。家から外に出て世の中の状況を見ても、人が多く集まる電車の中ではスマートフォンを操作している人を多く見かけます。

いつでも情報端末から情報を引き出せること、発信できることは大変便利なことであり、メモを手軽に写真に残すことができるなど、日常生活での行動も時代と共に変わっていることが多くあります。

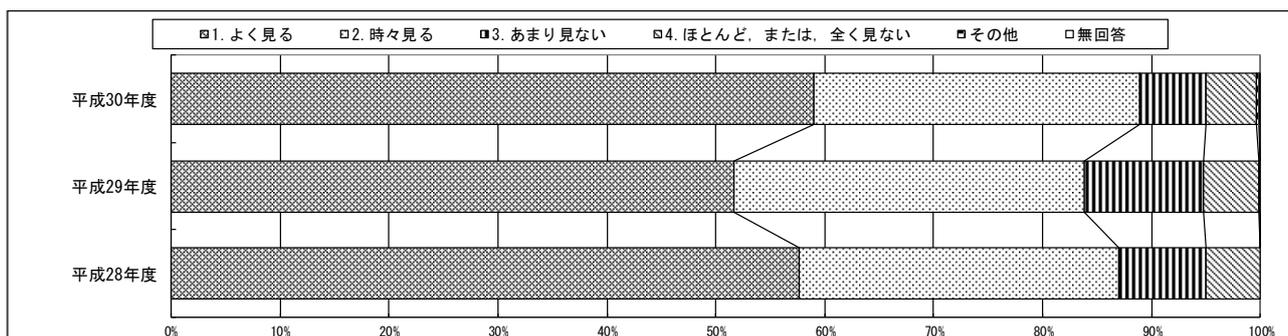
では、学習をするときに必要な「読むこと」や「書くこと」についてはどうでしょうか。「読むこと」に関しては次のような結果が出ています。

【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項									
(25)	新聞を読んでいますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	読まない		その他	無回答
平成30年度	3.4	9.5	14.6	72.5			72.5		0.0	0.0
平成29年度	5.0	7.4	12.9	74.6			74.6		0.0	0.0
平成28年度	3.9	6.9	17.5	71.6			71.6		0.0	0.0

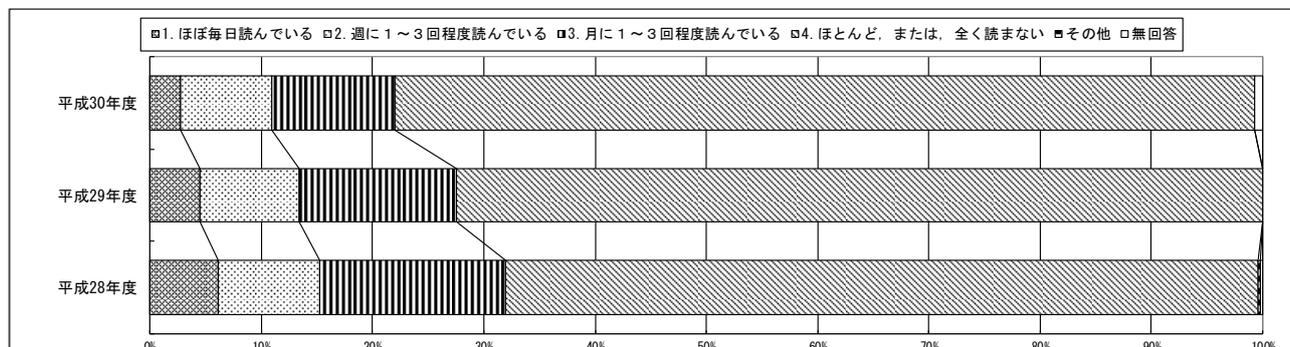


質問番号	質問事項									
(26)	テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）									
選択肢	1	2	3	4	5	6	見る (1+2)		その他	無回答
平成30年度	58.9	29.9	6.1	4.6			88.8		0.2	0.2
平成29年度	51.6	32.1	11.0	5.0			83.7		0.2	0.0
平成28年度	57.6	29.4	8.0	5.0			87.0		0.0	0.0

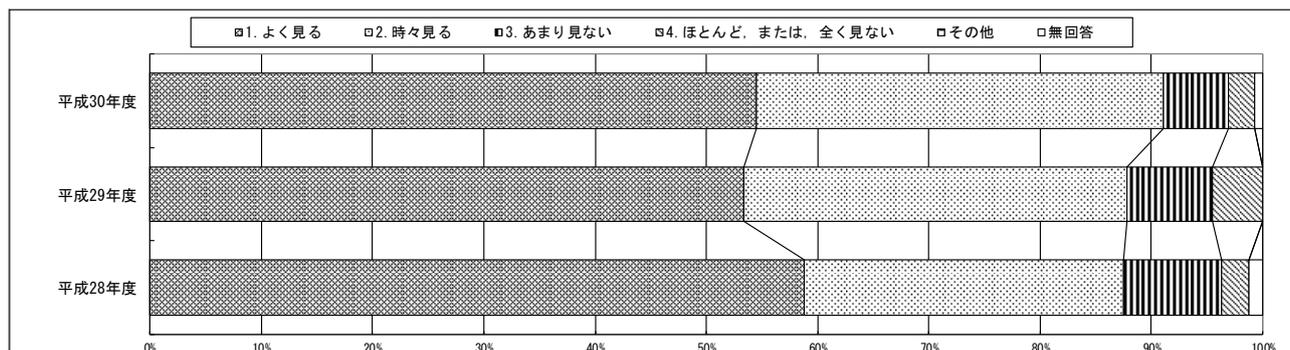


【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項										
(25)	新聞を読んでいますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	読まない		その他	無回答
平成30年度	2.7	8.2	11.1	77.3				77.3		0.0	0.7
平成29年度	4.5	8.9	14.1	72.5				72.5		0.0	0.0
平成28年度	6.1	9.1	16.7	67.6				67.6		0.2	0.2



質問番号	質問事項										
(26)	テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	見る (1+2)		その他	無回答
平成30年度	54.5	36.6	5.8	2.4				91.1		0.0	0.7
平成29年度	53.3	34.4	7.7	4.5				87.7		0.0	0.0
平成28年度	58.8	28.7	8.8	2.5				87.5		0.0	1.2



児童・生徒はいずれも関心があることについては知りたいと思うこと、それについてはニュースを見ることで情報を得ていることが分かります。「見る」ことはあっても、「読む」ことが少なく、新聞については全国でも多くの児童・生徒が読まないと回答しています。

前頁の冒頭にあるように、「読むこと」については大きく環境が変わっています。インターネットには文字はありますが、新聞や本とは構成が違います。また、SNS では1回に投稿できる字数に制限があるものもあること、正しい漢字が使われてなくても音（おん）で何となく伝えようとしていることが分かる状態が存在することなど、文字に触れる環境は変わっています。なるべく短く相手に伝えること、伝えようとしていることを読み手が補完することなど、これまでの新聞や本を「読むこと」とは異なる状況にあります。

このように児童・生徒を取り巻く環境が変化しても、これまでと変わらずに「読むこと」を行っているところもしっかりと存在しています。それが学校です。授業では教科書を読みます。それだけに、どの教科においても「読む」機会についてはしっかりと確保していくことが大事になっています。

「書くこと」についても「読むこと」と同じように、日常生活の中では機会が少ないこ

とが考えられます。情報端末で文字を扱いますが、「書く」のではなく「打つ」のであって、入力のソフトによっては漢字の変換の候補が出てくる便利な機能が備わっており、学校の授業での「書く」機会が非常に重要になっています。

これから求められる力としての「書く」については、「自分の考えを書く」ことを指しており、「書く」という側面について、平成30年度全国学力・学習状況調査の結果は次のとおりです。

小学校 国語B (主として活用)		対象 設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
分類	区分		平均正答率	全国との差		
全体		8	47*	-7.7	54	54.7
問題形式	選択式	5	61.2	-6.4	68.1	67.6
	短答式					
	記述式	3	23.1	-10.1	30.9	33.2

B 問題	「記述式」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(正 答 率 (%)	率全 国と の正 差答	無 解 答 率
1三	これから言葉をどのように使っていきたいかについて、北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ口を書く	目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す	21.3	-12.5	11.1
3二	【伝記「湯川秀樹」の一部】を読んで、【ノートの一部】C 最も心がひかれた一文とその理由の文章の口に入る内容を書く	自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える	38.5	-13.8	20.3

A 問題	「漢字の使い方」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(正 答 率 (%)	率全 国と の正 差答	無 解 答 率
8ア	文の中で漢字を使う(せい造)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	66.6	-6.8	4.6
8イ	文の中で漢字を使う(せつ備)		72.9	-9.3	6.5
8ウ	文の中で漢字を使う(しょう毒)		75.8	-6.4	7.3
8エ	文の中で漢字を使う(かん理)		52.8	-12.2	7.7
8オ	文の中で漢字を使う(せつ極的)		46.0	-5.4	9.4

小学校 算数B (主として活用)		対象 設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
分類	区分		平均正答率	全国との差		
全体		10	45*	-6.5	52	51.5
問題形式	短答式	2	59.1	-7.5	66.1	66.6
	記述式	5	35.1	-8.8	43.5	43.9

B 問題	「記述式」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(正 答 率 (%))	率全 と国 の正 差答	無 解 答 率
2(2)	1回の玉入れゲームの時間を3分に最も近い時間にするための玉を投げる時間を、表に整理して求める	示された考え方を解釈し、ほかの数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断することができる	39.0	-8.9	2.4
3(1)	メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く	メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる	13.8	-6.9	22.3

小学校 理科		対象 設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
分類	区分		平均正答率	全国との差		
全体		16	59*	-1.3	60	60.3
問題形式	選択式	13	62.8	-1.0	63.6	63.8
	短答式	1	81.8	2.4	72.5	79.4
	記述式	2	22.8	-5.2	27.6	28.0

活用	「記述式」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(正 答 率 (%))	率全 と国 の正 差答	無 解 答 率
2(3)	一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く	より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる	18.4	-1.7	0.7
4(4)	食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導きだす結論を書く	実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できる	27.2	-8.7	10.0

中学校 国語B (主として活用)		対象 設問数 (問)	寒川町		神奈川県 (公立)	全国 (公立)
分類	区分		平均正答率	全国との差		
全体		9	59 *	-2.2	62	61.2
問題形式	選択式	6	63.8	-2.9	67.5	66.7
	短答式					
	記述式	3	49.9	-0.4	50.9	50.3

B 問題	「記述式」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(正 %) 答 率	率全 との 正 差 答	無 解 答 率
1三	「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く	目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く	10.6	-2.7	5.5
3三	話のあらすじを学級の友達にどのように説明するかを書く	相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く	47.4	-1.8	9.6

A 問題	「漢字の書き・読み」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(正 %) 答 率	率全 との 正 差 答	無 解 答 率
8-1	漢字を書く (紙をひもで <u>タ</u> バねる)	文脈に即して漢字を正しく書く	73.0	-6.0	17.1
8-2	漢字を書く (舞台の <u>マ</u> クが上がる)		66.3	-6.6	20.0
8-3	漢字を書く (先制点を <u>ユ</u> ルす)		55.7	-15.7	28.4
8-1	漢字を読む (模型を作る)	文脈に即して漢字を正しく読む	93.7	-2.0	2.7
8-2	漢字を読む (池の水が <u>凍</u> る)		97.6	-0.2	1.7
8-3	漢字を読む (技を <u>磨</u> く)		97.6	-0.5	1.9

中学校 数学B (主として活用)		対象 設問数 (問)	寒川町		神奈川県 (公立)	全国 (公立)
分類	区分		平均正答率	全国との差		
全体		14	43 *	-3.9	48	46.9
問題形式	短答式	7	52.7	-3.5	56.5	56.2
	記述式	5	22.8	-5.1	29.0	27.9

B 問題	「記述式」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			(正 %) 答 率	率全 との 正 差 答	無 解 答 率
1 (3)	全校よりも1年生の回答用紙によるくじ引きの方が曲Fが選ばれやすいこと理由を確率を用いて説明する	不確実な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる	27.6	-8.6	24.0
4 (3)	平行四辺形ABCDを正方形ABCDに変えたときの四角形EBFDがどのような四角形になるかを説明する	付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができる	36.3	-6.0	22.1

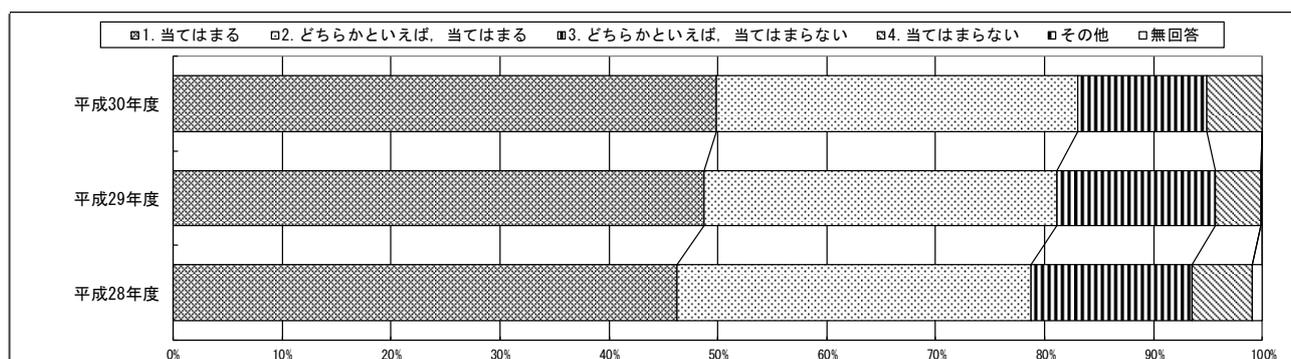
中学校 理科		対象 設問数 (問)	寒川町		神奈川県（公立）	全国（公立）
分類	区分		平均正答率	全国との差		
全体		27	64 *	-2.1	66	66.1
問題形式	選択式	17	68.8	-2.1	70.4	70.9
	短答式	4	68.2	-2.0	67.3	70.2
	記述式	6	47.9	-2.2	51.2	50.1

活用	「記述式」 設問の概要	出題の趣旨	寒川町		
			（正答率）	率全国との正差	無解答率
4（2）	図書便りに紹介されていたファラデーの「ロウソクの科学」を読んで、ガスバーナーを使った燃焼を科学的に探究する場面において、実験器具の操作や化学変化と原子・分子、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘できる 化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明できる	40.2	-3.9	11.3
4（3）			39.5	-9.9	14.9

「書くこと」についてはこれまでも課題として取り上げており、平成 29 年度の全国学力・学習状況調査結果分析の概要¹²に状況の分析と対応について述べており、平成 29 年度からの学校での具体的な対応により児童・生徒の意識については次のような状況です。

【小学校児童質問紙】

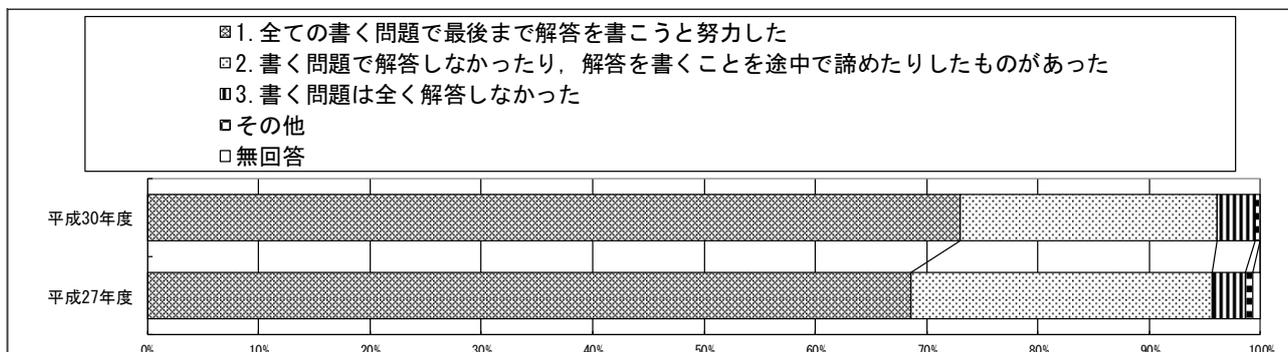
質問番号	質問事項									
(36)	算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成30年度	49.9	33.1	11.9	5.1			83.0		0.0	0.0
平成29年度	48.7	32.4	14.6	4.1			81.1		0.0	0.2
平成28年度	46.3	32.5	14.7	5.6			78.8		0.0	0.9



12 「平成 29 年度の全国学力・学習状況調査結果分析の概要」の 32 ページに記載
(右 QR コード)

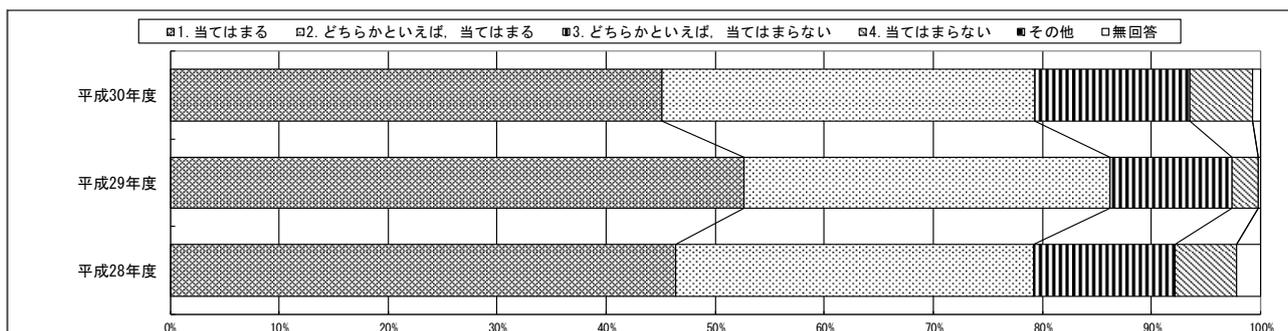


質問番号	質問事項										
(51)	今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
平成30年度	73.0	23.1	3.4							0.5	0.0
平成27年度	68.7	27.1	2.9							0.7	0.7

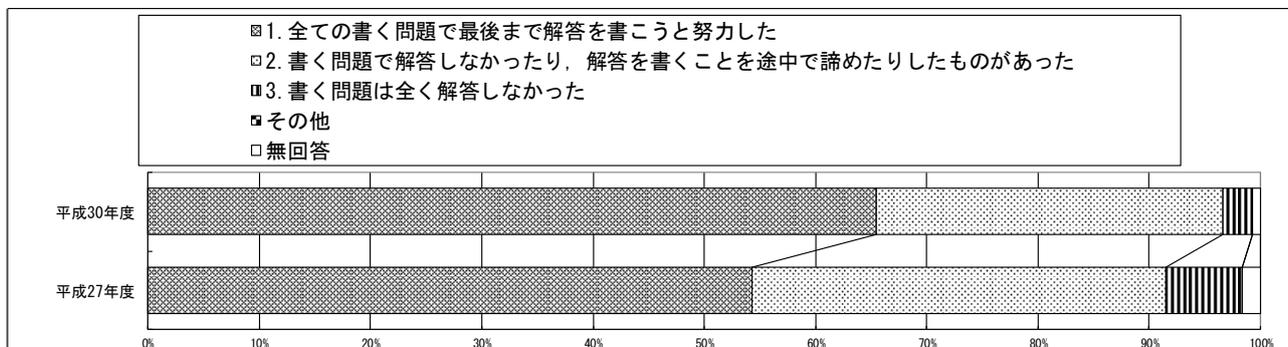


【生徒質問紙】

質問番号	質問事項										
(36)	数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成30年度	45.1	34.2	14.2	5.8				79.3		0.0	0.7
平成29年度	52.6	33.5	11.2	2.4				86.1		0.0	0.2
平成28年度	46.3	32.8	13.0	5.6				79.1		0.0	2.2



質問番号	質問事項											
(51)	今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
平成30年度	65.5	31.1	2.7								0.0	0.7
平成27年度	54.3	37.2	6.9								0.0	1.6



平成30年度児童・生徒質問紙調査では国語に関する調査はありませんでしたが、算数・数学、理科については授業で「書く」機会が確保され、また、「書く」ことへの抵抗感につ

いては低くなっていることを読み取ることができます。

また、漢字についても、学校では小学校、中学校とも新出漢字等についてはドリル学習、プリント学習を行い、読み書きの指導については徹底してします。また、単元毎の見取りについても小テスト、定期テストで確実な定着に取り組んでいます。漢字については「書くこと」同様これまでも課題として捉えてきましたが、平成30年度の問題にあるように、小学校調査では「漢字を文の中で正しく使う」、中学校調査では「文脈に即して、漢字を正しく書く・読む」という使い方を問われるものになっています。漢字単体や熟語を「書く・読む」から「使う」というように変化をしており、先述しました文字を「打つ」こと、インターネット等児童・生徒を取り巻く言語環境の変化がある中、それに対応していく必要があることを漢字という側面が示しています。

情報通信端末やコンピュータなどのICT機器が生活の中に当たり前存在し、その使い方についての指導が必要なことと、便利さの中で省かれることなく必要な学習についてしっかりと押さえていくことの両方を意識していくことが求められています。

次代を担う児童・生徒に求められる力¹³は、一つひとつ細かく挙げていけばこれまでより増えています。そのような状況の中でしっかりと力をつけていくには、今一度教育の原点に戻り、学校・家庭・地域が温かな学習環境を作っていくこと、その中で児童・生徒のコミュニケーションから生まれる言葉で作られる授業を行うこと、そしてこれまでの改善への取り組みによって児童・生徒や保護者、学校の先生の頑張りがあったことを評価し、町全体の肯定感を持たせることが確かな力を育てていくことにつながります。

「相手のよいところを認めてくれますか」－これが社会には必要なことです。

13 【予測困難な時代に、一人一人が未来のつくり手となる】社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となっていており、しかもそうした変化が、どのような職業や人生を選択するかにかかわらず、全ての子供たちの生き方に影響するものとなっている。しかし、このような時代だからこそ、子供たちは、変化を前向きに受け止め、私たちの社会や人生、生活を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにし、現在では思いもつかない新しい未来の姿を構想し実現したりしていくことができる。人工知能がいかに進化しようとも、それが行っているのは与えられた目的の中での処理である。一方で人間は、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え出すことができる。多様な文脈が複雑に入り交じった環境の中でも、場面や状況を理解して自ら目的を設定し、その目的に応じて必要な情報を見だし、情報を基に深く理解して自分の考えをまとめたり、相手にふさわしい表現を工夫したり、答えのない課題に対して、多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解を見いだしたりすることができるという強みを持っている。このために必要な力を成長の中で育てているのが、人間の学習である。これから子供たちが活躍する未来で一人一人に求められるのは、解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解いたり、定められた手続を効率的にこなしたりすることにとどまらず、直面する様々な変化を柔軟に受け止め、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考え、主体的に学び続けて自ら能力を引き出し、自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりして、新たな価値を生み出していくことであると考えられる。そのために必要な力を、子供たち一人一人が学ぶことで身に付け、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにすることが重要である。(次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ第1部2より抜粋)